

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

平成30年の我が国の漁業・養殖業の生産量は442万7,393tで、前年に比べ12万994t（2.8%）増加した。

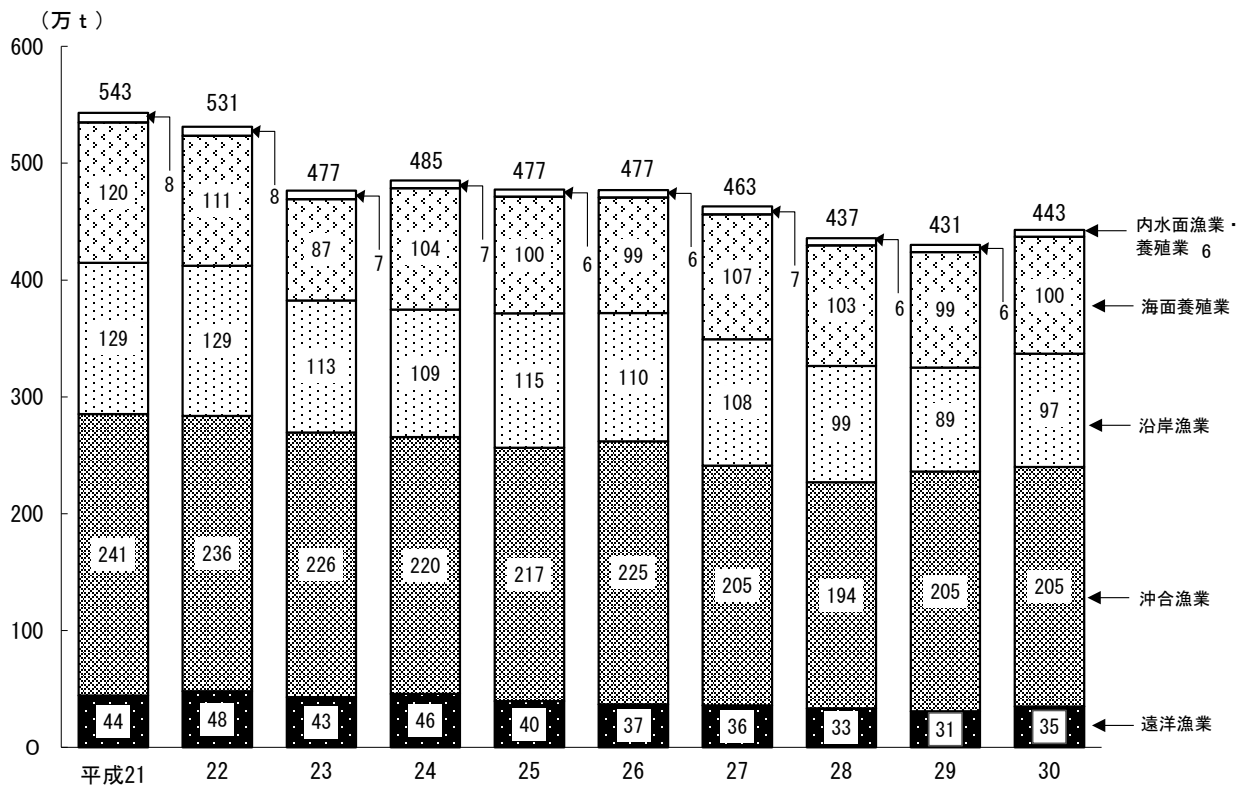
このうち、海面漁業の漁獲量は336万5,716tで、前年に比べ10万7,427t（3.3%）増加した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は34万9,388tで、前年に比べ3万5,654t（11.4%）増加、沖合漁業は204万7,711tで、前年に比べ3,837t（0.2%）減少、沿岸漁業は96万8,618tで、前年に比べ7万5,611t（8.5%）増加した。

また、海面養殖業の収穫量は100万4,871tで、前年に比べ1万8,815t（1.9%）増加した。

内水面漁業・養殖業の生産量は5万6,806tで、前年に比べ5,248t（8.5%）減少した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合がある（以下同じ。）。

2 海面漁業

海面漁業の漁獲量は336万5,716 tで、前年に比べ10万7,427 t (3.3%)増加した。

東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は9万87 tであり、前年に比べて1万4,295 t (18.9%)増加、宮城県の漁獲量は18万7,618 tであり、前年に比べて2万9,290 t (18.5%)増加した。

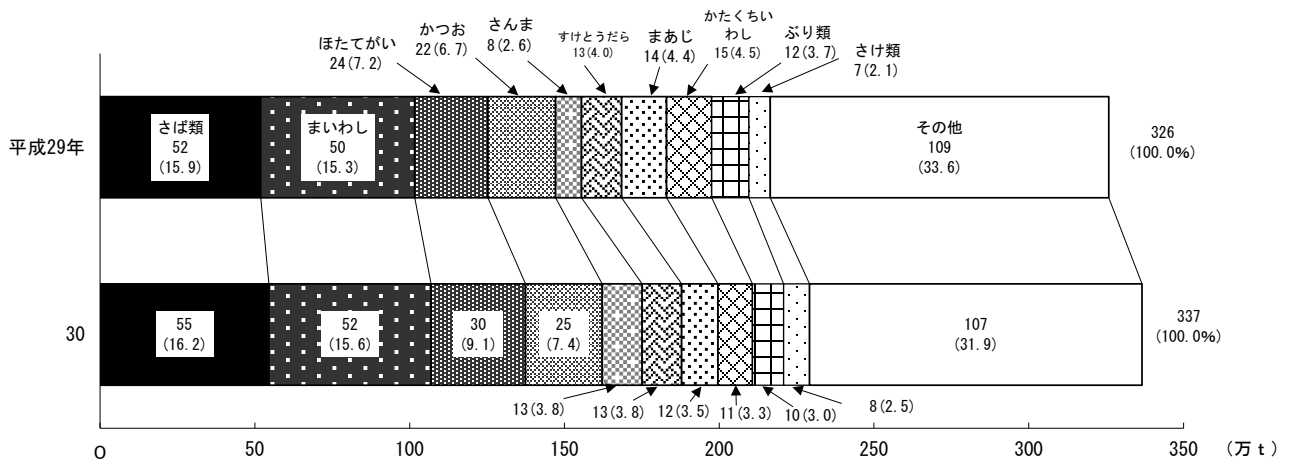
また、福島県の漁獲量は5万33 tであり、前年に比べて2,826 t (5.3%)減少した。

主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほたてがい、さんま、かつお、さば類、まいわしであり、減少した主な魚種は、かたくちいわし、まあじ、ぶり類、うるめいわし、すけとうだらであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が16.2%、まいわしが15.6%、ほたてがいが9.1%、かつおが7.4%、さんまが3.8%、すけとうだらが3.8%、まあじが3.5%、かたくちいわしが3.3%、ぶり類が3.0%、さけ類が2.5%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



(1) さば類

漁獲量は54万5,235 tで、前年に比べ2万6,387 t (5.1%)増加した。

これは、宮崎県、島根県等で増加したためである。

(2) まいわし

漁獲量は52万4,212 tで、前年に比べ2万6,249 t (5.3%)増加した。

これは、石川県、宮城県等で増加したためである。

(3) ほたてがい

漁獲量は30万4,767 tで、前年に比べ6万8,815 t (29.2%)増加した。

これは、漁獲量のほとんどを占める北海道で増加したためである。

- (4) かつお
漁獲量は24万7,716 tで、前年に比べ2万8,739 t (13.1%) 増加した。
これは、静岡県、宮城県等で増加したためである。
- (5) さんま
漁獲量は12万8,929 tで、前年に比べて4万5,126 t (53.8%) 増加した。
これは、北海道等で増加したためである。
- (6) すけとうだら
漁獲量は12万7,497 tで、前年に比べ1,772 t (1.4%) 減少した。
これは、岩手県等で減少したためである。
- (7) まあじ
漁獲量は11万7,782 tで、前年に比べ2万7,173 t (18.7%) 減少した。
これは、長崎県等で減少したためである。
- (8) かたくちいわし
漁獲量は11万1,374 tで、前年に比べ3万4,708 t (23.8%) 減少した。
これは、大阪府、三重県等で減少したためである。
- (9) ぶり類
漁獲量は10万421 tで、前年に比べ1万9,927 t (16.6%) 減少した。
これは、長崎県、島根県等で減少したためである。
- (10) さけ類
漁獲量は8万3,952 tで、前年に比べて1万5,347 t (22.4%) 増加した。
これは、北海道等で増加したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(上位1位～5位)

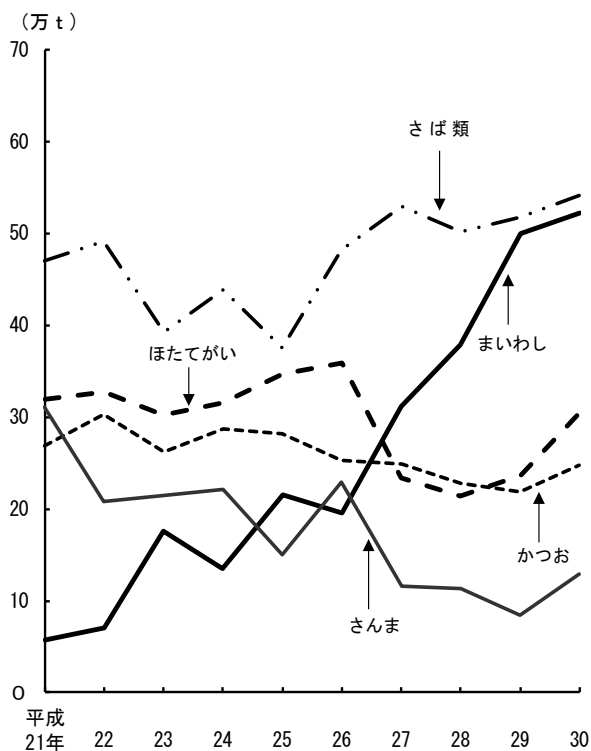
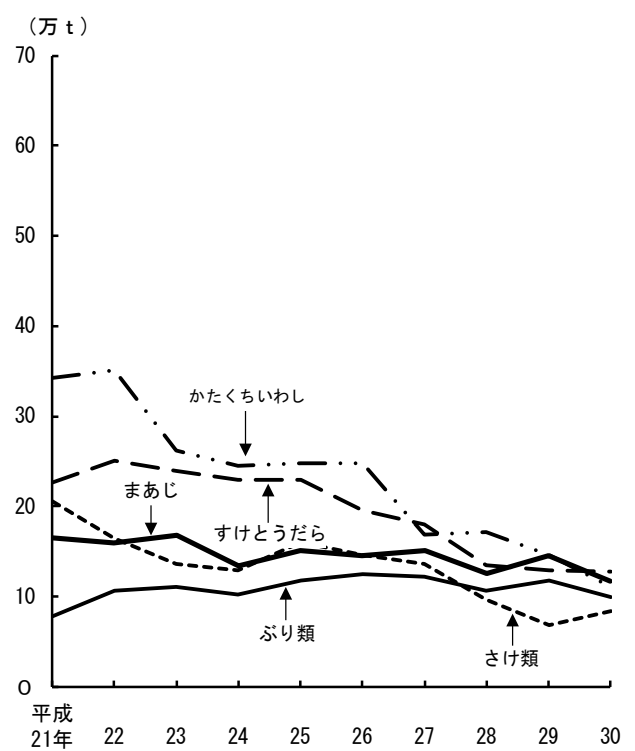


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(上位6位～10位)



3 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は100万4,871tで、前年に比べ1万8,815t（1.9%）増加した。

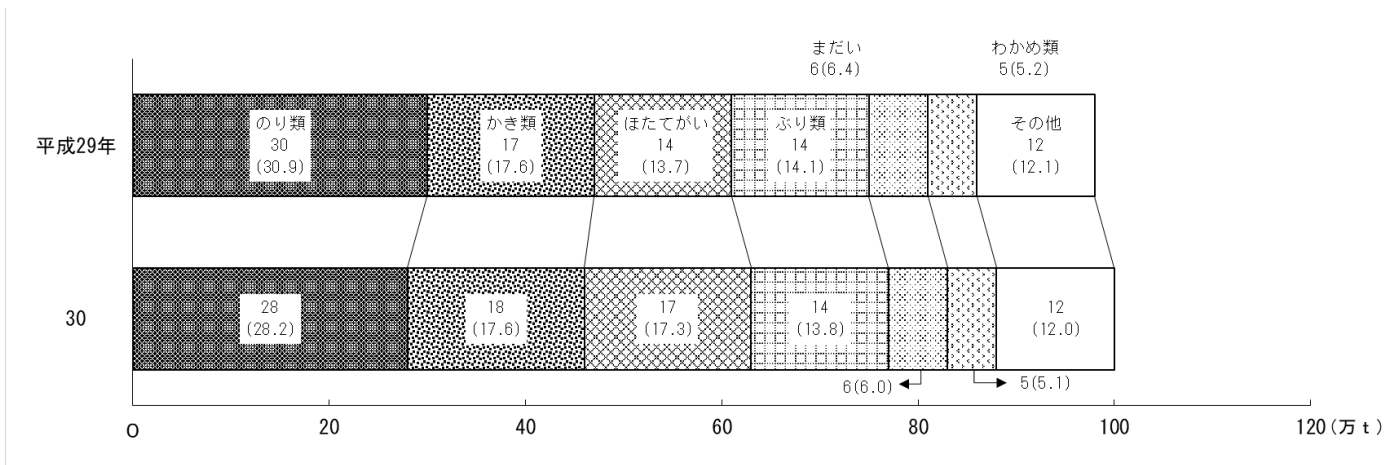
これは、ほたてがいが増加したためである。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は3万6,502t、宮城県の収穫量は8万1,173tであり、岩手県は前年に比べて937t（2.5%）減少し、宮城県は前年に比べて1万245t（11.2%）減少した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほたてがいがい、かき類、こんぶ類であり、減少した主な魚種は、のり類、まだい等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が28.2%、かき類が17.6%、ほたてがいが17.3%、ぶり類が13.8%、まだいが6.0%、わかめ類が5.1%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



(1) 魚類

収穫量は24万9,491tで、前年に比べ1,858t（0.8%）増加した。

ア ぶり類

収穫量は13万8,229tで、前年に比べ770t（0.6%）減少した。

これは、熊本県等で減少したためである。

イ まだい

収穫量は6万736tで、前年に比べ2,114t（3.4%）減少した。

これは、熊本県で減少したためである。

ウ ぎんざけ

収穫量は1万8,053tで、前年に比べ2,405t（15.4%）増加した。

これは、宮城県等で増加したためである。

(2) 貝類

収穫量は35万1,104tで、前年に比べ4万1,667t（13.5%）増加した。

ア ほたてがいがい

収穫量は17万3,959tで、前年に比べ3万8,869t（28.8%）増加した。

これは、北海道等で増加したためである。

イ かき類

収穫量は17万6,698 tで、前年に比べ2,798 t（1.6%）増加した。

これは、岡山県、宮城県等で増加したためである。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

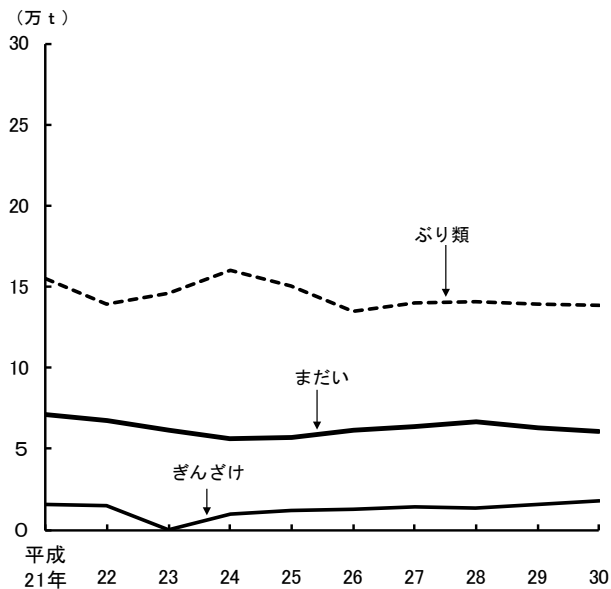
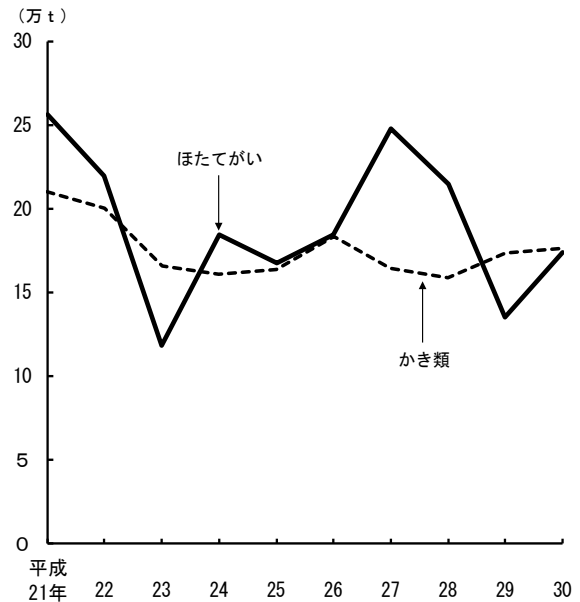


図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



(3) 海藻類

収穫量は39万647 tで、前年に比べ1万7,188 t（4.2%）減少した。

ア のり類（生重量）

収穫量は28万3,688 tで、前年に比べ2万620 t（6.8%）減少した。

これは、熊本県、福岡県等で減少したためである。

イ わかめ類

収穫量は5万775 tで、前年に比べ339 t（0.7%）減少した。

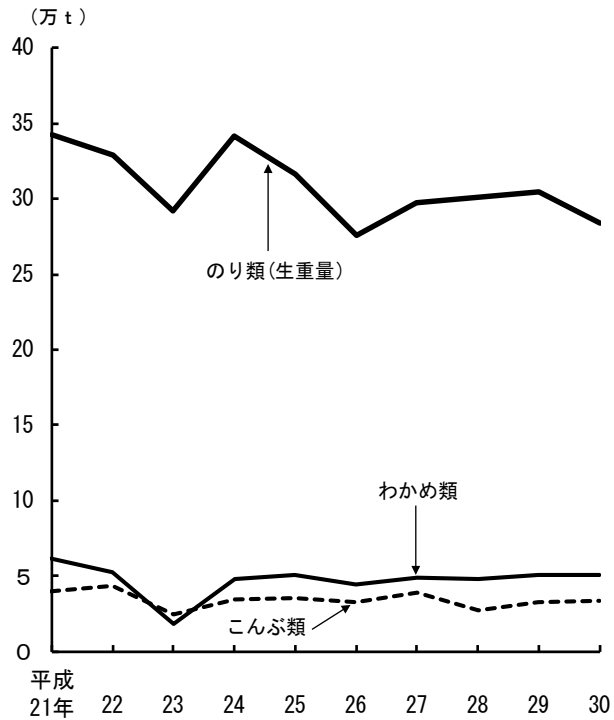
これは、宮城県等で減少したためである。

ウ こんぶ類

収穫量は3万3,532 tで、前年に比べ1,069 t（3.3%）増加した。

これは、岩手県、北海道で増加したためである。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



4 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要112河川及び24湖沼）の漁獲量は2万6,957 tで、前年に比べ1,742 t（6.9%）増加した。

(1) 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は1万988 tで、前年に比べ1,176 t（12.0%）増加した。

また、湖沼における漁獲量は1万5,969 tで、前年に比べ566 t（3.7%）増加した。

(2) 主要魚種別漁獲量

ア しじみ

漁獲量は9,646 tで、前年に比べ222 t（2.2%）減少した。

イ さけ類

漁獲量は6,696 tで、前年に比べ894 t（15.4%）増加した。

これは、北海道等で増加したためである。

ウ あゆ

漁獲量は2,140 tで、前年に比べ28 t（1.3%）減少した。

エ わかさぎ

漁獲量は1,146 tで、前年に比べ203 t（21.5%）増加した。

これは、秋田県等で増加したためである。

オ しらうお

漁獲量は462 tで、前年に比べ99 t（17.6%）減少した。

これは、青森県等で減少したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

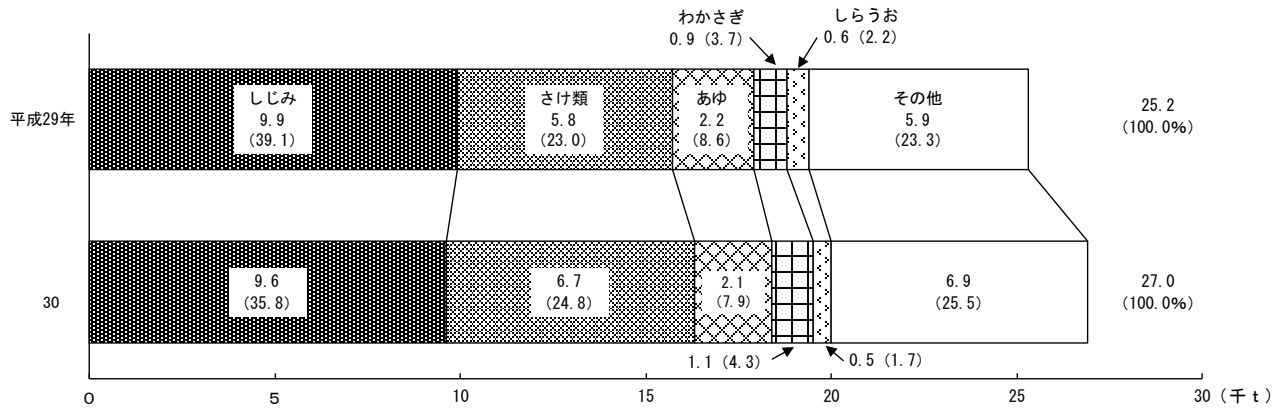
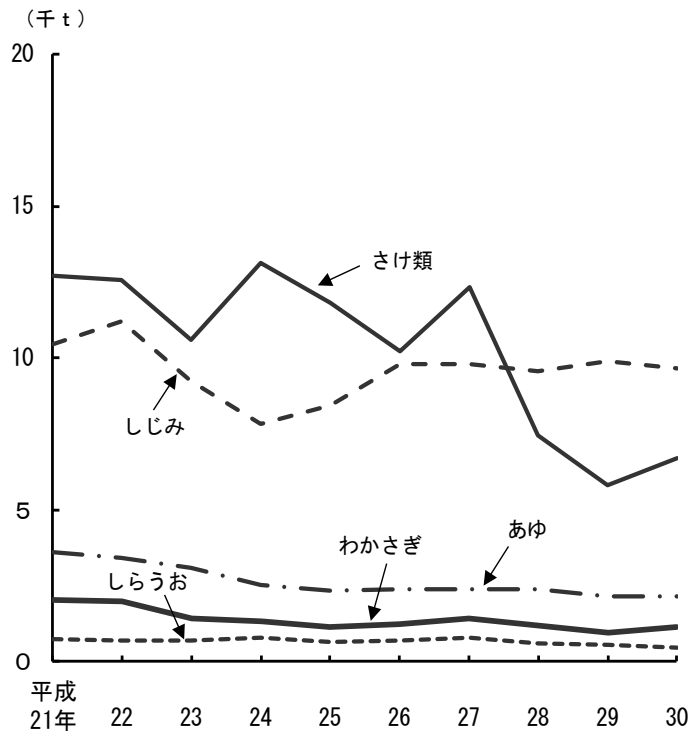


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



5 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は2万9,849 tで、前年に比べ6,990 t (19.0%) 減少した。

(1) うなぎ

収穫量は1万5,111 tで、前年に比べ5,868 t (28.0%) 減少した。

これは、愛知県、鹿児島県等で減少したためである。

(2) あゆ

収穫量は4,310 tで、前年に比べ743 t (14.7%) 減少した。

これは、岐阜県、和歌山県等で減少したためである。

- (3) にじます
 収穫量は4,732 tで、前年に比べ1 t (0.0%) 増加した。
- (4) こい
 収穫量は2,932 tで、前年に比べ83 t (2.8%) 減少した。

図 11 内水面養殖業主要魚種別収穫量

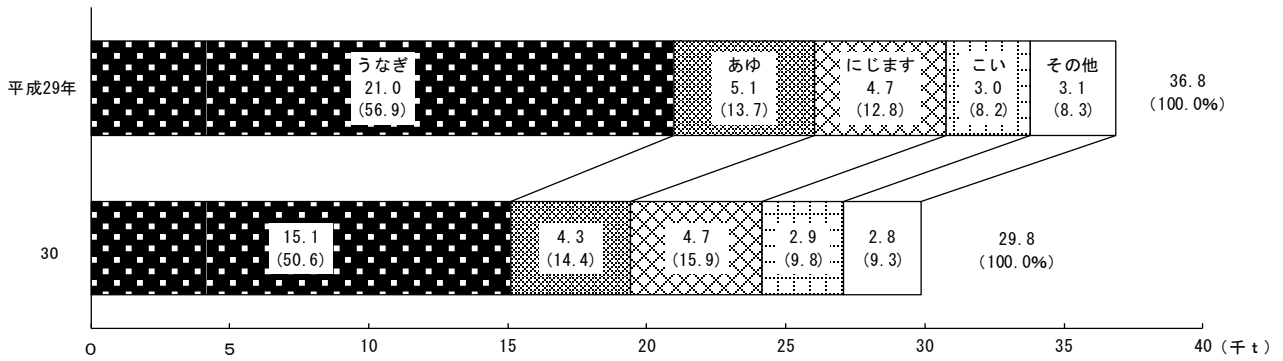


図 12 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移

